

## 内因

一六（赤）

開業醫師及警察署検疫醫ヨリ、赤痢菌検出ノ目的ヲ以テ當廳細菌検査所ニ送付シ來レル所謂注意患者ノ尿ヨリ検出シタル菌及傳染病院ニ於テ收容患者ヨリ検出シタルモノ、並防疫施設トシテ年々施行セル健康者ノ保菌者検索ニ依リ發見シタルモノニ就テ、其ノ菌株ノ消長ヲ觀ルニ第七項所說ノ如ク、近年ニ於テハ異型I菌(駒込B)及異型III菌(駒込A)ニ因ル發病者ヲ以テ大部分ヲ占メ殊ニ前者ハ總數ノ六二%ヲ占有セリ。

而シテ市民中ニ於ケル保菌者介在率ハ管下ノ赤痢流行ノ隆起ニ隨伴シテ増大シ本年ハ〇・六五%（患者及保菌者關係ヲ除ク純健康者中ニハ〇・二六%）ニ及ブ分布濃度ヲ有セリ。

赤痢保菌者ノ分布增大シテ、今ヤ管下ニハ四時、二、三萬人以上ノ赤痢保菌者ヲ包容シ居レルヤニ推測セラル、而シテ此等保菌者中ニハ輕症罹患者ト認メラル、モノ少カラズシテ、其ノ經過中ハ格別ノ自覺苦ナキ爲從業ニ依リテ夫レガ飲食物關係業者ナラバ公衆人ニ、亦主婦等ノ場合ニハ家庭人ニ病毒ヲ傳染セシムル頻度甚ダ多シ。又健康保菌者ニアリテハ常態ニ於テハ病毒ヲ散逸スルコト比較的僅微ナルモ、保菌者自體ニ於テ不攝生其ノ他ノ動機ニ由ルテ一朝下痢ヲ催サンカ、忽チニシテ赤痢症ヲ誘發スル場合モアルベク、發病後ハ一層其ノ病毒ヲ四散シテ第二次第三次患者續發ノ因子ト爲レリ。

## 外因

序上ノ如ク現ニ驚クベキ多數ノ保菌者ヲ帝都ニ包容シ居レルコトガ、畢竟今日ノ赤痢患者多發ノ最大由因ト爲リ、各赤痢菌株間ニ於ケル微妙ナル消長或ハ大衆免疫ノ關係其ノ他ニ保菌者激増ノ胚因ヲ有スルモノト信ズ。

東京市ニ於テハ傳染病院ヲ悉ク近代式ニ改築シ今ヤ收容及診療ノ設備間然スルトコロナキ六大病院（外ニ分院四院、又管下八王子市ニ傳染病院一院、郡部ニ町村組合立二院アリ）アリテ克ク市民ノ信賴心ヲ收攬スルニ至レリ、而シテ他面ニ當部竝東京市當局ニ於テハ別項ノ如ク講習、講演、映畫等ニ依リテ民衆ニ對シ豫防警戒心ノ喚起啓發ニ努メ居レルコトト、之ニ呼應シテ庶民ハ一般ニ生活資力ノ關係上病人發生ノ場合ニハ、逸早ク之ヲ公營ノ病院ニ倚頼シテ低廉經費ニテ且亦家庭ニ置ケルヨリモ安易ニ加療セントスル氣風興リテ著シク届出ヲ促進シタル影響甚ダ大ナリ。

近來本病疑ノ患者發生スルヤ開業醫師ヲ訪フコトナク、患者ヲ伴ヒテ直接傳染病院ニ駆込ム者相踵ゲル事實アリ、又患者ノ死亡率著シク低下ノ狀アルコト等ハ如何ニ届出ノ促進セルカラ察知シ得ル資料タルベシ。

要之管下ニ於テ近來赤痢疫痢患者ヲ著シク多發セルコトハ、畢竟前述一大因子ノ苟合セル結果ニ他ナラズ、現ニ赤痢菌ノ浸淫殆ト治キ狀態ニアリトセラル、大東京ニ於テ赤痢患者ノ大部ヲ占メツ

ツアル小兒ノ死亡率ニ就テ検討スルニ、從前腸カタル其ノ他ノ病名ニテ模糊ノ裡ニ取扱ハレッ、アリシ程度ノモノガ近來ハ、赤痢ト決定セラル、コト甚ダ多キモノ、如ク、近年ノ赤痢菌ノ猖獗状態ヲ清算シテ猶且是等類症疾患總和ノ小兒ノ死亡率ハ寧ロ著明ニ減少セル事實アリ。

今之ヲ立證スル爲ニ、一般死亡統計ヲ資料トシ十歳以下ノ死亡者ニ就キ赤痢疫痢ト鑑別ヲ誤ラレ易キ消化不良、腸胃「カタル」、乳兒脚氣及腦膜炎ノ死亡數ト本病ト診定サレタル死亡數トノ動向ヲ觀ルニ左表ノ如ク、赤痢疫痢ノ病名ヲ冠スル死亡數ハ殆ド其ノ母體タル患者數ニ追從スルコトナク三千四百乃至四千二百名ノ間ニ留マレリ、亦之ガ類症トスル前記四病ノ病名ヲ冠スル死亡數ハ人口自然増加ノ著シキニ拘ラズ寧ロ減少シ、兩者合算實數ニ於テ亦其ノ總死亡數對比ニ於テモ遞減ノ趨勢歚然タル事實アリ。乃チ統計上ノ外觀數字ヲ以テセバ近時赤痢疫痢ノ患者數ヲ徒ニ累積セシメタリトスル一面的譏ナシトセザルモ、本病ニ最モ冒サレ易キ幼齡ノ生命保護ノ見地ニ於テハ着々實效ヲ收メ大乘的ニ防疫本來ノ目的ヲ達成シツ、アルコトヲ證明シ得ラル、ノミナラズ、目今ノ赤痢豫防施策トシテ府民ノ警戒心ヲ涵養シタル結果、從前ニ於テハ死因統計中結核ト共ニ死亡數ノ首位ヲ競ヒ居タリシ下痢腸炎死亡數ヲ著シク抑壓シテ之ヲ低減セシメタリ、吾帝都東京ノ總人口千對死亡率ガ近年十三、四人程度ニ低落シテ將ニ歐米優良保健都市ニモ比肩スペキ保健向上ヲ齋ラシツ、アル事實ノ一半ノ效績ハ蓋シ茲ニ發端スルモノナルコトヲ信ジテ疑ハザルナリ。

◎最近十ヶ年管内十歳以下ノ赤痢死亡ト之ト鑑別ヲ誤ラレ易キ疾患ニ依ル死亡數

年次	管内總死亡數	年齢十歲以下ノ死亡			總死亡ニ對スル%
		赤痢、疫痢 ル、乳兒脚氣、腦膜炎	消化不良、腸胃カタ	計	
昭和五年	七九、一四九	三、六四四	七、四六三	一一、一〇七	一四・〇三
六年	八八、二三七	三、四〇三	七、二二三	一〇、六二六	一二・〇四
七年	八〇、九五六	三、五二八	六、四四七	九、九七五	一二・三二
八年	八九、三七〇	四、〇九四	八、二五五	一二、三五一	一三・八二
九年	八九、三六九	三、四六五	六、三九三	一〇、五八七	一一・三〇
十年	八五、二三〇	三、六一九	五、七九〇	九、四〇九	一一・〇四
十一	八八、六六九	三、八二六	六、七六一	一〇、五八七	一一・九四
十二	九一、二三一	四、二一〇	五、五五四	九、七六四	一〇・七〇
十三	九七、八九二	四、一〇〇	四、八六八	八、九六八	九・一六
十四年	九八、九九八	四、三七八	四、四一〇	八、七八八	八・八八

## 二、季節別觀察

本病ハ常在性傳染病中、季節的ノ消長最モ鋭敏ニシテ、毎年氣溫表ト患者發生表トハ大勢的ニ同型ノ示向線ヲ現ハシ、炎暑ニ由リテ患者ヲ激生スルヲ常例トセリ。

最近五年平均ニ於ケル月別發生割合ハ八月ニ最モ多クシテ全年ノ一八・〇二%（疫痢ノミニテハ一九・八四%）ヲ占メ、七月一五・五三%、九月一四・一二%ニシテ、結局六月乃至十月ノ五ヶ月ニ於テ

全年數ノ六七・八一%ヲ占メ、疫痢ノミニテハ七一・三九%ノ大部ヲ占有シ居レリ。（第一表参照）

### 三、區郡別観察

由來大都市ニ於テハ地域ニ據リテ其ノ人口構成上ニ特異ノ偏性アリ、例ヘバ商業地區タル日本橋區ニアリテハ十歳以下ノ小兒ハ僅々全人口ノ一四%ニ過ギザルニ比シ、細民住宅街タル王子、葛飾、江戸川等ノ區ニ於テハ之ヲ倍加シテ二八%以上ノ小兒ヲ包容スルヲ以テ、本病ノ如ク罹患者ノ大部ハ小兒ヲ以テ占ムルモノニアリテハ此ノ人口偏性等ヲ一應考量シテ觀察すべきモノナルモ、爰ニハ之ヲ平等ニ看做シテ第四表ニ據リ區郡別比較ヲ行フニ本年發生率ノ最モ高キハ、豊島區ノ人口萬對比六一・五五ニシテ同區ハ三年連續シテ高率ノ首位ニ在リ、瀧野川區ノ五九・三一之ニ次ギ淀橋區、荒川區ハ相踵デ發生率高ク、最近五年平均ニ於テモ亦豊島區ヲ最高トシ、王子、荒川、板橋、瀧野川、淀橋、八王子、目黒、中野、芝、蒲田等之ニ亞グリ。（第四表参照）

本年ノ發生中爆發的或ハ密集性ノ主ナルモノヲ摘錄セバ左ノ如シ、而シテ此等ノ集團發生ニ係ルモノハ悉ク異型I菌(駒込B)ニ因ルコトハ特ニ注目セラル、處ナリ。

1. 一月初旬ヨリ府立松澤病院(精神病院)内ニ斷續的ニ屢々患者ヲ發生シ、四月頃一時終熄ノ状アリシニ、八月頃迄ノ間更ニ數回發病者ヲ出シ、通計患者三十九名、保菌者十五名ヲ算セリ。
2. 麻布區所在某女學校(小學校附設)ノ給食者五百十七人中ヨリ六月十八日、九日頃爆發的ニ發病シ赤痢患者四十一名、細菌決定時已ニ主要症狀消退セル爲保菌者トシテ取扱ヘル者十二名、輕症下痢ニテ終結シタル者百三十七名ニ及ビ死亡者二名ヲ出セリ。
3. 府下立川町某株式會社工場ニ於テ、六月下旬患者六十七名、保菌者二十名ヲ爆發セリ、右ハ第一食堂配膳人吉○政○ガ六月十六日ヨリ發病シ、其ノ從業中病毒ヲ傳播シタルモノト認メラレタリ、第二食堂ノ系統ニハ全然發病者ヲ見ザリキ。
4. 大森區所在某女子○○專門學校寄宿舍其ノ他ヨリ九月十五日、同二十日ノ間ニ亘リ赤痢ト診定患者十名、細菌決定時已ニ主要症狀消退ノ爲保菌者扱ニシタル者四十名、健康保菌者百四十五名、(内百十名ハ多少ノ違和アリ)輕症下痢五十名ノ爆發アリタリ、原因ハ九月十二日新規屋入タル賄婦武○ミ○ガ、九月九日、十日頃輕症下痢ニ罹リ病後赤痢排菌中其ノ汚染セル手指ニテ十三日胡瓜鹽もみヲ作リ、同日ノ晝食ニ供食シタルニ因ルモノト認メラレタリ。
5. 荒川區所在某紡績工場寄宿舍ニ於テ、八月上旬ヨリ中旬ニ亘リ患者四十二名、保菌者扱シタル者十一名、外ニ輕症下痢八十四名ノ爆發ヲ見タリ、傳染徑路ニ關シ諸種ノ調査ヲ行ヒタルモ詳ナ

ラズシテ終結ヲ告ゲタリ。

#### 四、年齢及性別觀察

疫痢ハ無論小兒病ナルモノ、普通赤痢ト診定セラレタルモノモ其ノ過半數ハ十歳以下ノ年齢者ヲ以テ占有セリ、即チ第六表ノニニ據レバ赤痢及其ノ疑似症中最近五年平均ニ於テハ、最モ罹患數ノ多キハ四歳ニシテ、五歳及三歳伯仲シテ之ニ亞ギ、結局十歳以下ニ於テ總患者數ノ四九・七四%ヲ占有シ居レルガ本年ハ此ノ十歳以下ノ占有割合ニ稍著明ノ減少ヲ見タリ、而シテ赤痢保菌者検索ノ結果本年發見シタル健康保菌者ノ中十歳以下ノ者ハ二三・一五%ニシテ從前ニ比シ著シク減少シ、十一歳以上ハ七六・八五%ナリ。

次ニ疫痢ト診定セラレタルモノ、ミヲ年齢別ニ觀ルトキハ、是レ亦四歳ノ者最モ多ク總數ノ二五・七三%ヲ占メ、五歳ノ一〇・三二%及三歳ノ一九・三二%之ニ亞ギ六歳ノモノハ一二・六〇%、七歳ハ七・八八%ニ減ゼリ、結局三歳乃至七歳ヲ以テ八五・八五%ノ大部ヲ占メ、十一歳以上ハ僅一・九七%ニ過ギズ。

今十四年末現在管内人口ヨリ算出シタル年齢別推計人口ニ據リ、罹患率ヲ年齢別ニ比較セバ第六表ノ二乃至同三下段ノ如ク昭和十四年ハ每歲人口一萬ニ付四歳ハ二百七十九人、五歳ハ二百四十三人、三歳ハ百九十人、六歳百五十八人、七歳百二十六人ノ罹患率ヲ示シ、四歳ヲ尤トシテ三歳乃至七歳

ノ幼兒ニ於ケル罹患率ノ如何ニ著大ナルカヲ表現シ居レリ。

#### 五、患者ノ病床経過

由來疫痢ハ病症極メテ急激ニシテ且幼小兒ノ事トテ、其ノ過半數ハ發病當日ニ醫診ヲ受ケ居レルガ特ニ豫防知識ノ普及ニ伴ヒ近來一層早期診療ノ傾向アリ、自然其ノ豫後好轉ノ跡ヲ認メ居レリ。

之ヲ治癒轉歸者ニ就テ觀ルニ發病ヨリ治癒退院迄ノ期間ハ、從來赤痢疫痢共ニ二十日位ニテ轉歸セルモノ最モ多ク、本年疫痢ノ平均治療日數ハ二十一日六〇、赤痢ハ之ヨリ一日遲クレテ二十二日九四ナリ。死亡轉歸者ニアリテハ、疫痢ハ發病後一、二日ニシテ死去スルモノ頗ル多ク平均二日九八ナルガ、赤痢ハ平均五日八三ニテ死亡セリ。（第十五各表參照）

#### 六、死 亡 率

由來本病ハ病症極メテ急激ナル爲、死後病名ヲ決定スルモノ或ハ診定後送院ノ餘裕ナク須臾ニシテ死亡スルモノ甚ダ多ク、昭和七年以前ニハ之ニ該當スルモノ毎年過半數ヲ占メタリシガ届出ノ勵行ニ依リテ漸次減少シ、本年ノ右該當者ハ二九・四九ニ低下シ居レリ。

本年發生患者ノ死亡率ハ赤痢ニアリテハ八・七八%ニシテ昨年ヨリ〇・〇三低下シ、赤痢疑似症ハ六・八三%、疫痢ハ三三・七三%ニシテ昨年ニ比シ實ニ二・五八ヲ低下セリ、三者合算乃チ總赤痢ニ於テハ一五・九二%ニシテ年々降段状ニ低下シ大正末年頃迄ノ五〇%内外ノ死亡率ヲ普通トシタル

時代ニ比スレバ格段ノ差較ヲ見ルニ至レリ。

最近五年間ニ疫痢ト診定セラレタル者ノ年齢別死亡率ヲ觀ルニ五歳ノモノ最モ高ク六歳、四歳、七歳、三歳、二歳順次之ニ次ギ、大體罹患率ノ高キ年齢級ニ死亡率亦高ク、女性ハ男性ニ比シテ死亡率稍々高シ。（第七表乃至第十表第十四表參照）

## 七、病原菌株

### 1. 罹患者ノ病原菌型

管下ニ於テ赤痢ノ流行擡頭シタルハ昭和二年ニシテ爾來年々加速度的増發ノ狀ヲ呈セリ、而シテ之ガ病原菌株ヨリ本病流行ノ消息ヲ窺フトキハ罹患者ニアリテハ異型I菌（駒込A）ニ依ルモノ斷然多ク、左掲第1表ニ據レバ本年ハ六二・二三%ヲ占メ今日ノ東京ニ於ケル赤痢多發ノ主流ハ本菌株ノ蔓延ニ由ルモノトモ謂ヒ得ラルベシ、而シテ異型III菌（駒込A）ハ多少ノ周期性消長ハアルモ、第1表ノ如ク本年ハ二七・八三%ニ下リ、毎年概々全數ノ三分ノ一以下ニ止マレリ。又大原菌ニ依ル發病者ハ九・八六%ヲ占ムルニ過ギズシテ現時流行ノ大勢ニハ關與セズ。志賀菌（本型菌）ニ依ル發病者ハ極メテ稀ナリ。

### 2. 健康保菌者ノ菌型

昭和三年以來年々患者ノ家族同居人、飲食物營業從業者等ニ對シ赤痢保菌者ノ検索ヲ實施シ居レ

ルガ其ノ成績及菌株ノ割合ハ第2表ノ如クニシテ年次検出率ハ増騰シ、昭和十年以來○・五%ヲ超エ、本年亦○・六五%ヲ示セリ即チ大東京ノ住民中ニハ毎常○・五%以上ノ赤痢保菌者介在スルコトヲ表明シ居レリ、此ノ現象ニ付テ考察スルニ現下流行ノ異型赤痢菌ハ殆ド季節ヲ問ハズ市井ニ瀰漫シ居レリ、然レドモ其ノ毒力ハ弱クシテ發病スルモノヨリモ保菌者狀態ニアル者ノ方甚ダ多ク大東京ニ於テハ此等保菌者ハ當時三萬人以上ヲ擁シ居レルモノト推算セラレ、隱然本病流行因子トシテ重要ナル關係ヲ有スルモノト目セラル。



## 八、其ノ他

二八 (赤)

本年ノ患者中検病的調査及健康診断ニ依リテ發見シタルモノ百二十二名、検疫醫ノ死體検案ニ依リテ發見（多クハ細菌検査ノ上決定）シタルモノ七十六名ヲ算シ、結局總患者ノ〇・六二%ハ警察ニ於テ發見シタルモノニシテ、醫師ノ届出ニカ、ルモノハ九八・九三%ナリ。（第十一表參照）疑似症及疫痢ハ殆ド臨床所見ニ依リ病名ヲ決定シ居レルモ、赤痢ハ其ノ八・九二%ハ細菌學的決定ニ據レリ。（第十二表參照）

本年一家ヨリ患者二名以上ヲ出シタルモノハ第十三表ノ如ク三千五戸ニ及ビ其ノ患者數七千三十八人ヲ算シテ總患者數ノ二二・〇一%ヲ占ム。

### 第一表 最近十箇年發生患者及人口對比

年 次	病 名	別 計	人口 一萬 對 比	全 國 平 均 人 口 一 萬 對 比 (管 内 ヲ 除 ク)
	赤 痢	同 疑 似 症	疫 痢	患 者 死 者 患 者 死 者
昭和五年	四・〇六	一・四七	五・異	〇・六
昭和六年	四・一四	一・零八	五・九	〇・七
昭和七年	四・一九	一・異	五・九	〇・六
昭和八年	四・〇〇	一・〇三	五・九	〇・六
昭和九年	六・〇七	一・九六	六・〇	〇・六
昭和十年	六・〇一	二・〇三	六・〇	〇・六
昭和十一年	七・〇五	二・一五	七・〇	〇・六
昭和十二年	七・一七	二・二七	七・一	〇・六
昭和十三年	七・二九	三・四九	七・二	〇・六
昭和十四年	七・三三	四・一九	七・三	〇・六
昭和十五年	八・四二	九・五九	八・四	〇・六
昭和十六年	八・三九	九・五九	八・三	〇・六
昭和十七年	七・二二	九・五九	七・二	〇・六
昭和十八年	六・四二	九・五九	六・四	〇・六
昭和十九年	六・一〇	九・五九	六・一	〇・六
昭和二十年	五・七三	九・五九	五・七	〇・六
昭和廿一年	五・三〇	九・五九	五・三	〇・六
昭和廿二年	五・〇七	九・五九	五・〇	〇・六
昭和廿三年	五・〇五	九・五九	五・〇	〇・六
昭和廿四年	五・〇三	九・五九	五・〇	〇・六
昭和廿五年	五・〇一	九・五九	五・〇	〇・六
昭和廿六年	五・〇〇	九・五九	五・〇	〇・六
昭和廿七年	四・九九	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿八年	四・九八	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿九年	四・九七	九・五九	四・九	〇・六
昭和三十年	四・九六	九・五九	四・九	〇・六
昭和三十一年	四・九五	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅二年	四・九四	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅三年	四・九三	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅四年	四・九二	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅五年	四・九一	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅六年	四・九〇	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅七年	四・九一	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅八年	四・九二	九・五九	四・九	〇・六
昭和卅九年	四・九三	九・五九	四・九	〇・六
昭和四十一年	四・九四	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿四年	四・九五	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿五年	四・九六	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿六年	四・九七	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿七年	四・九八	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿八年	四・九九	九・五九	四・九	〇・六
昭和廿九年	五・〇〇	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅年	五・〇一	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅一年	五・〇二	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅二年	五・〇三	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅三年	五・〇四	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅四年	五・〇五	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅五年	五・〇六	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅六年	五・〇七	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅七年	五・〇八	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅八年	五・〇九	九・五九	五・〇	〇・六
昭和卅九年	五・〇九	九・五九	五・〇	〇・六
昭和四十一年	五・〇九	九・五九	五・〇	〇・六

備考

比較對照ノ爲掲タル全國平均人口一萬對比ノ原數ニハ疑似症ヲ含マズ

疑似症中ニハ疫痢ノ疑似症ヲ包含ス



三二（赤）

品川區	二九三	三一	一八五	三一	一〇六	二、三九	一、〇五〇	三、五九
目黒區	一九〇	一九〇	一〇六	一〇六	一〇六	一、一〇六	一、〇六〇	二、五八
大森區	一九四	一九四	一〇九	一〇九	一〇九	一、一〇九	一、〇九〇	二、五〇八
世田谷區	一八四	一八四	一〇四	一〇四	一〇四	一、一〇四	一、〇九九	二、四七九
蒲田區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九八	二、四七七
大森原區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九七	二、四七四
中野區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九六	二、四七二
豊島區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九五	二、四七〇
荒川區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九四	二、四六九
板橋區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九三	二、四六八
足立區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九二	二、四六七
向島區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九一	二、四六六
城東區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四六五
葛飾區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四六四
市	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四六三
淀谷區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四六二
澁谷區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四六一
杉並區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四六〇
荒川區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四五九
王子區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四五八
足立區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四五七
向島區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四五六
城東區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四五五
葛飾區	一一八	一一八	一〇一	一〇一	一〇一	一、一〇一	一、〇九〇	二、四五四

總	八王子市及郡部	江戸川區 (東京水上)	計	西多摩郡	北多摩郡	南多摩郡	八王子市	計	島嶼	計
江戸川區	九〇	一〇三	一一〇							
八王子市	八	一〇一	一一〇							
東京水上	一一	一二〇	一一〇							
計	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九	九二九六、八九九
島	島嶼	一	六	三	六	三	九四	六六	五〇	一〇三
計	九〇〇	一〇一	八〇三	五二三	四五一	三六一	二六六	一〇四	一〇三	一一一
赤痢中ニ疑似症ヲ含ム										

第四表 人口一萬ニ對スル患者發生區郡別

(赤痢及疑似症)

三四 (赤)

區 郡 名	東																																		
	昭和十年 發生率 順位					昭和十一年 發生率 順位					昭和十二年 發生率 順位					昭和十三年 發生率 順位					昭和十四年 發生率 順位					平均 發生率 順位									
深	京	芝	麻	赤	牛	本	下	淺	本	本	神	日	京	芝	麻	赤	牛	本	本	石	田	町	橋	日本	東	島	野	川							
川	河	谷	坂	谷	川	川	所	谷	所	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川	川						
三	空	西	交	西	交	三	空	二	空	二	七	九	一	九	一	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元						
二	空	西	交	西	交	三	空	二	空	二	七	九	一	九	一	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元						
12	10	6	14	8	26	18	24	30	25	16	32	35	33	31	30	28	25	27	29	26	28	27	29	26	28	27	29	26	28						
云	元	三	元	三	云	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元	三	元					
二	四	五	一	六	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八					
20	15	18	21	19	26	28	27	16	11	3	35	34	17	29	31	28	35	30	26	28	27	29	26	28	27	29	26	28	27						
元	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	二十	二十一	二十二	二三	二四	二五	二六					
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三				
15	23	13	12	16	24	18	32	19	25	20	29	31	28	35	30	26	28	31	29	32	19	25	20	29	31	28	35	30	26	28					
元	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	二十	二十一	二十二	二三	二四	二五	二六	二七	二八			
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三			
26	34	27	14	5	3	2	7	6	33	1	10	8	30	9	11	21	4	22	15	23	13	12	16	24	18	32	19	25	20	29	31	28	35	30	
元	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	二十	二十一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八			
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
19	26	32	20	2	4	7	5	1	25	14	3	8	23	10	21	24	12	27	15	23	13	12	16	24	18	32	19	25	20	29	31	28	35	30	
元	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	二十	二十一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八			
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
23	30	35	19	4	12	5	2	1	22	11	3	10	26	17	29	28	13	31	15	23	13	12	16	24	18	32	19	25	20	29	31	28	35	30	
元	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二三	二四	二五	二六	二七	二八	二九	二十	二十一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八			
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	
22	28	31	15	4	2	3	5	1	27	8	6	26	29	10	24	18	7	25	16	23	12	11	13	18	32	21	14	9	33	35	30	34	31	28	22

東

高三愛月京新築久錦西萬丸麴  
場世神輪田宿島橋地橋留松橋田町内町

署名		發生病者		患者實數		人口萬對比	
署	管	內	居	住	者	同上	者以
(赤色)	(黑色)	(瘦)	(痺)	(計)	(合)	(外) (*印ハ ノ内)	者
二〇元	二六三	二四一	二五七	二九一	二八六	二二五	二二五
三元	三三三	三四三	三三三	三三三	三三三	二二二	二二二
四元	四三三	四三三	四三三	四三三	四三三	三三三	三三三
五元	五三三	五三三	五三三	五三三	五三三	四三三	四三三
六元	六三三	六三三	六三三	六三三	六三三	五三三	五三三
七元	七三三	七三三	七三三	七三三	七三三	六三三	六三三
八年	八年	八年	八年	八年	八年	五年	五年
九年	九年	九年	九年	九年	九年	四年	四年
十年	十年	十年	十年	十年	十年	三年	三年
十一	十一	十一	十一	十一	十一	二年	二年
一二	一二	一二	一二	一二	一二	一年	一年
一三	一三	一三	一三	一三	一三	一	一
一四	一四	一四	一四	一四	一四		

第五表 警察署別患者數及人口對比（昭和十四年）

署	發生病者	患者實數	人口萬對比				
署	管	內	居	住	者	同上	者以
本	年	前	年				

總	島	部	子	王	江
計	嶼	市	市	子	戸
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	三・一〇
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	二一
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	二二
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	一七
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	一九
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	一七
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	一六
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	一八
二七・七	一七・九	三・九	三・九	三・九	一七

三六（赤）

三七（赤）



八王子市及郡部		市代淀戸中野杉荻巢池目練板尾赤王南三日																			
計	五青田町八日王	小松新川町戸飾幡島井住	葛西千砂龜寺吾新	幕河千野里	島住久羽子馬橋川白袋鴨窪並方野塚木橋																
一〇九	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	三三三五五七三六	
八六	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九
二九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九	一一一〇九一〇九一〇九一〇九
一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
二六	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一
四一(赤)	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一	一一一

島嶼	大新八丈島	計	一	二	三	六	九
		合計	二	七	一	一	六
島嶼	小笠原島	計	三	八三	一元	三六	九
		合計	一	八	一	一	一
島嶼	四二(赤)	計	八	三	三九	三六	九
		合計	一	八	一	一	一
島嶼	八丸	計	四五	四五	四九	六・九	一・九
		合計	一	一	一	一	一
島嶼	九・九	計	二	三	三、九四	三六	九
		合計	一	一	一	一	一
島嶼	一・四	計	一	一	一	一	一
		合計	一	一	一	一	一
島嶼	六・九	計	九・三	九・三	九・三	九・三	九・三
		合計	一	一	一	一	一
島嶼	一・九	計	一	一	一	一	一
		合計	一	一	一	一	一

第六表ノ一 患者年齢性別 (疑似症及疫)  
(痢ヲ含ム)

年齢別	患者實數				各年齡階級別人口 (昭和十四年)	各年齡階級別人口 (昭和十四年)
	男	女	計	男	女	
一一五	一一〇	一一七	二七七	二三二	一九・八	二一・九
一一一五	一一五	一一三	二二七	二三〇	二一・五	二一・五
一一一六	一一〇	一一〇	二二〇	一七〇	一九・〇	一九・〇
一一一七	一一五	一一一	二一六	一九〇	一九・一	一九・一
一一一八	一一〇	一一〇	二一〇	一七〇	一九・〇	一九・〇
一一一九	一一〇	一一〇	二一〇	一七〇	一九・〇	一九・〇
一一二〇	一一〇	一一〇	二一〇	一七〇	一九・〇	一九・〇
一一二一	一一一	一一一	二一六	一九〇	一九・〇	一九・〇
一一二六	一一一	一一一	二一〇	一九〇	一九・〇	一九・〇
一一三一	一一一	一一一	二一〇	一九〇	一九・〇	一九・〇
一一三六	一一一	一一一	二一〇	一九〇	一九・〇	一九・〇
一一四一	一一一	一一一	二一〇	一九〇	一九・〇	一九・〇
一一四五	一一一	一一一	二一〇	一九〇	一九・〇	一九・〇
一一五一	一一一	一一一	二一〇	一九〇	一九・〇	一九・〇
一一一六以上	一一六〇	一一五〇	二三五	一九〇	一九・〇	一九・〇
計	二六二五	二五三九	五〇六四	三〇三	三〇七	三〇七



第七表 死亡者年齢性別  
 (疑似症及疫)  
 (痢ヲ含ム)

## 第八表 痘瘍死亡者ノミノ年齢別





五二(赤)

第十一表 患者發見方法別

方 法 別		昭和十二年		昭和十三年		昭和十四年	
出 届		患 家 居 出		醫 師 居 出		赤 潟 同 症 診 測 計	
摘 檢 痘 調 查		死 體 檢 案		健 康 診 斷		病 例 數	
發 痘	檢 痘	死 體	檢 案	健 康	病 調	比 規	比 規
死 例	病 例	體 數	病 數	診 斷 數	查 數	數	數
注意 申 告	申 告	實 數	實 數	比 規 數	比 規 數	比 規 數	比 規 數
計		0.68	0.51	0.51	0.41	0.31	0.25
赤 潟	同 症	0.00	0.05	0.05	0.03	0.02	0.01
		六·四	九·三	九·三	八·六	七·五	五·三
似 診	症 測	六·一	六·一	六·一	六·一	六·一	六·一
疫 測	計	六·一	六·一	六·一	六·一	六·一	六·一

第十二表 患者決定方法別 (太數字ハ百分比)

年 次		一 戶 中		昭 和 十 二 年		昭 和 十 三 年		昭 和 十 四 年	
同 同 同 同 昭 和		一 戶 中		一 戶 中		一 戶 中		一 戶 中	
同 同 同 同 十 年		二 戶	三 戶	一 戶	二 戶	一 戶	二 戶	一 戶	二 戶
十 年 十 年 十 年 十 年		二·二五	一·三五	一·二五	一·三五	一·三五	一·二五	一·三五	一·三五
同 同 同 同 十一年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶
同 同 同 同 十二年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶
同 同 同 同 十三年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶
同 同 同 同 十四年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶

第十三表 一家ヨリ二名以上ノ患者發生 (痢疾ノ含ム)

年 次		一 戶 中		昭 和 十 二 年		昭 和 十 三 年		昭 和 十 四 年	
同 同 同 同 昭 和		一 戶 中		一 戶 中		一 戶 中		一 戶 中	
同 同 同 同 十 年		二 戶	三 戶	一 戶	二 戶	一 戶	二 戶	一 戶	二 戶
十 年 十 年 十 年 十 年		二·三五	一·三五	一·三五	一·三五	一·三五	一·三五	一·三五	一·三五
同 同 同 同 十一年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶
同 同 同 同 十二年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶
同 同 同 同 十三年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶
同 同 同 同 十四年		一 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶	三 戶	二 戶
計 戶 數		二·三五		一·三五		一·三五		一·三五	
計 百 分 比		八·三八		五·三五		四·三五		四·三五	
備考 本表ニハ會社、工場、學校等内ニ於テ爆發性ニ發生セルモノハ算入セズ									
備考 赤痢疑似症及疫病ノ細菌學的決定欄ニアル数字ハ臨床決定ノ際参考ノ爲採取シタル検査材料ニ於テ陽性ナリシモ ノヲ掲ゲリ									

備考 本表ニハ會社、工場、學校等内ニ於テ爆發性ニ發生セルモノハ算入セズ

五三(赤)

